C協働学習（C１）

主な学習活動　自分が好きなものを相手に伝わるように話す。

1 本時のねらい

伝えたいことが相手に伝わるように、声の大きさや速さなどを工夫することができる。

2 主に活用したＩＣＴ機器・コンテンツ等

カメラ　**電子黒板**

3 参考にしてほしいポイント

タブレットのカメラ機能を使って発表の様子を録画し、自分の話し方を客観的に見て個人・グループで振り返ることで、実感の伴った自己評価をすることができるようになる。

段階 場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開 終末	録画した発表の様子を個人・グループで鑑賞し、自分が立てためあてが達成できたかどうかを振り返る。また、できたことや反省から次のめあてをもつ。	（タブレット）発表の様子を撮影しておく。 （モニター）録画した発表の様子を鑑賞し、客観的に自分の話し方を見て、自己評価しやすくする。

タブレット

＋

モニター

みんなに聞こえる大きな声で言えたなあ。

今度はもっとはっきりしゃべりたい。

4 活用効果

発表の様子を動画に撮り、発表後にそれを子どもたちに見せた。自分の「好きなもの」と「そのわけ」を話し方のめあて「大きな声で・はっきりと」を意識して発表することができたか、自己評価させた。友達の感想を聞いただけでは分かりづらいことも、動画を見るとよく分かり、実感の伴った評価につながるという効果が得られた。また、反省をもとにした次回へのめあてをもつことができた。

5 アドバイザーからのコメント

自分の姿を自分の目で直接に見ることは不可能なことです。必ず写真や動画や他人の目を通してしか、自分を見ることはできません。動画を見ることで、もう一度自分の姿を振り返ることができます。但し、内容についての振り返りは、教員の指導が必要です。　（東京工業大学　赤堀侃司）

タブレット端末の基本的な使い方ではありますが、特に低学年においては客観的な視点で振り返るという点において有効に働くことが期待できます。児童がカメラ撮影をする際、慣れないうちは映像が乱れることもありますので、日常的に使用しスキルアップを図りたいところです。　（福島大学　平中宏典）